

# オルメテックの使用経験

第2回宮城神経内科医会

平成17年2月26日

せき内科・脳神経内科クリニック

関 久友

# オルメテック

1. ARB

2. アムロジピン、他のARBに比べて、  
降圧目標達成率が有意に高い

# 症例 1

症例： 69歳男性

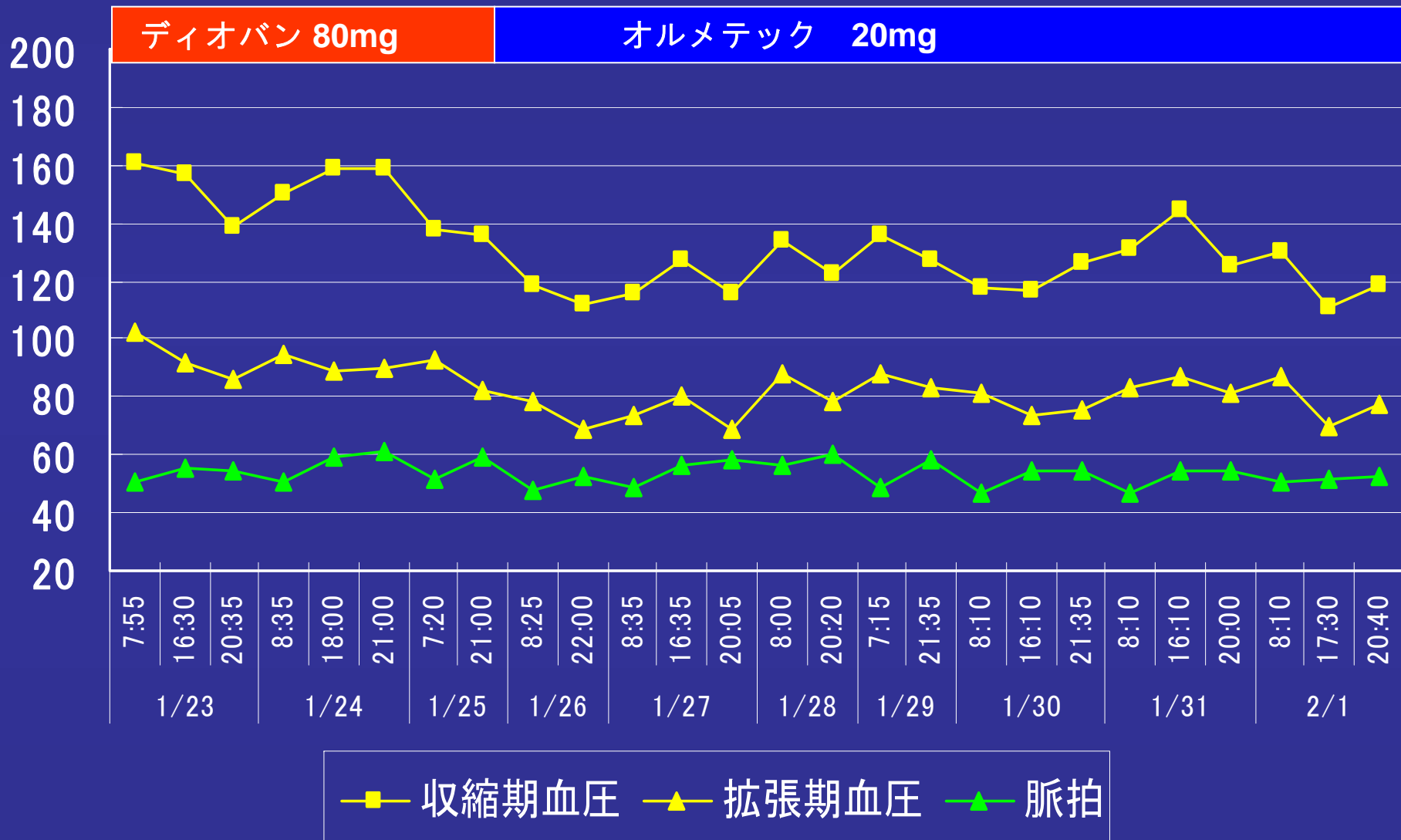
病歴： 平成15年11月15日、構音障害、  
ふらつき歩行にて発症。

国立仙台病院で小脳梗塞の診断。

高血圧症あり。

平成16年1月27日、当院紹介。

# 症例 1



## 症例 2

症例： 68歳女性

病歴： 平成16年10月16日、左片麻痺あり。

脳梗塞の診断で、広南病院紹介入院。

血圧176/90。

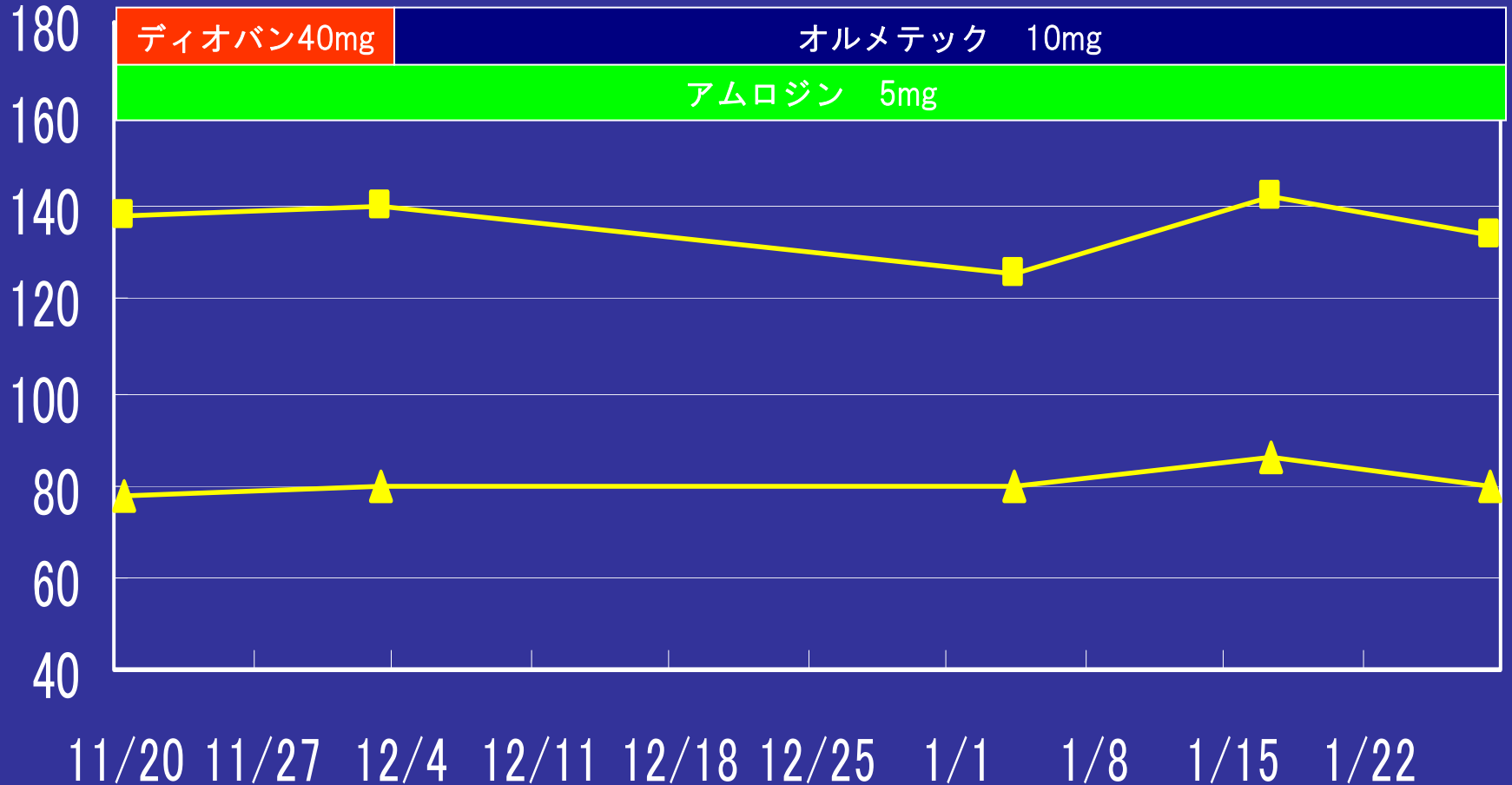
11月20日から、当院外来通院。

血圧138/78。ディオバン40、アムロジン5服用中。

12月3日、血圧140/80と比較的良好だが、

デイサービスで血圧高いため、オルメテック10mgに変更。

## 症例 2



■ 収縮期血圧

▲ 拡張期血圧

# 症例 3

症例： 48歳男性

病歴： 36歳から高血圧症にて加療中。

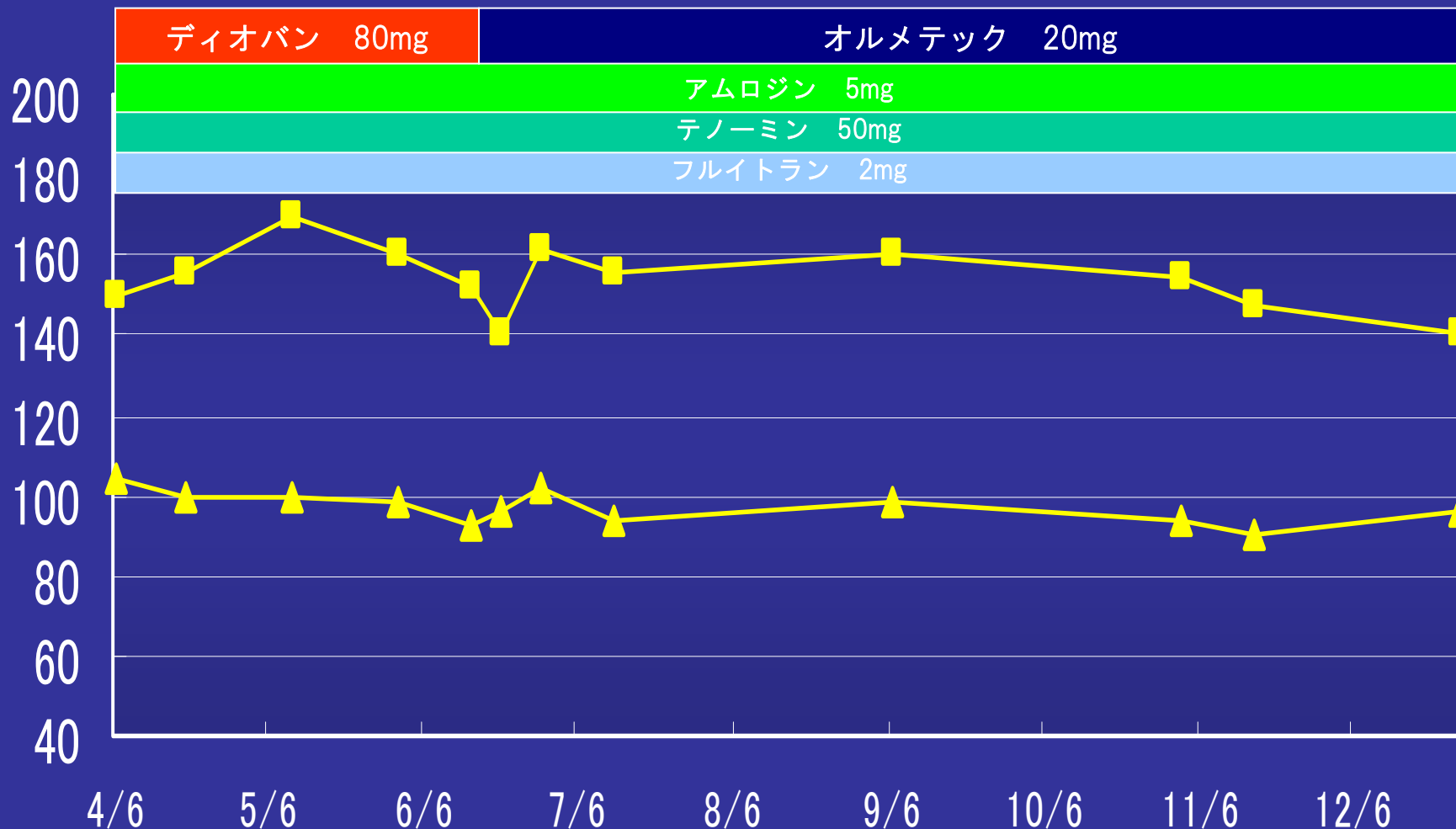
血圧がなかなか下がらないため、当院受診。

血圧160/104。母に高血圧あり。

ディオバン80、アムロジン5、フルイトラン2mg、  
テノーミン50mg服用中。

平成16年6月15日、ディオバン80mgから  
オルメテック20mgに変更。

# 症例 3



■ 収縮期血圧      ▲ 拡張期血圧



## 症例 4

症例： 57歳女性

病歴： 平成16年2月10日頃から、後頭部痛。

2月16日、当院受診。

緊張型頭痛、高血圧症の診断。

血圧150/92、アムロジン、呉茱萸湯開始。

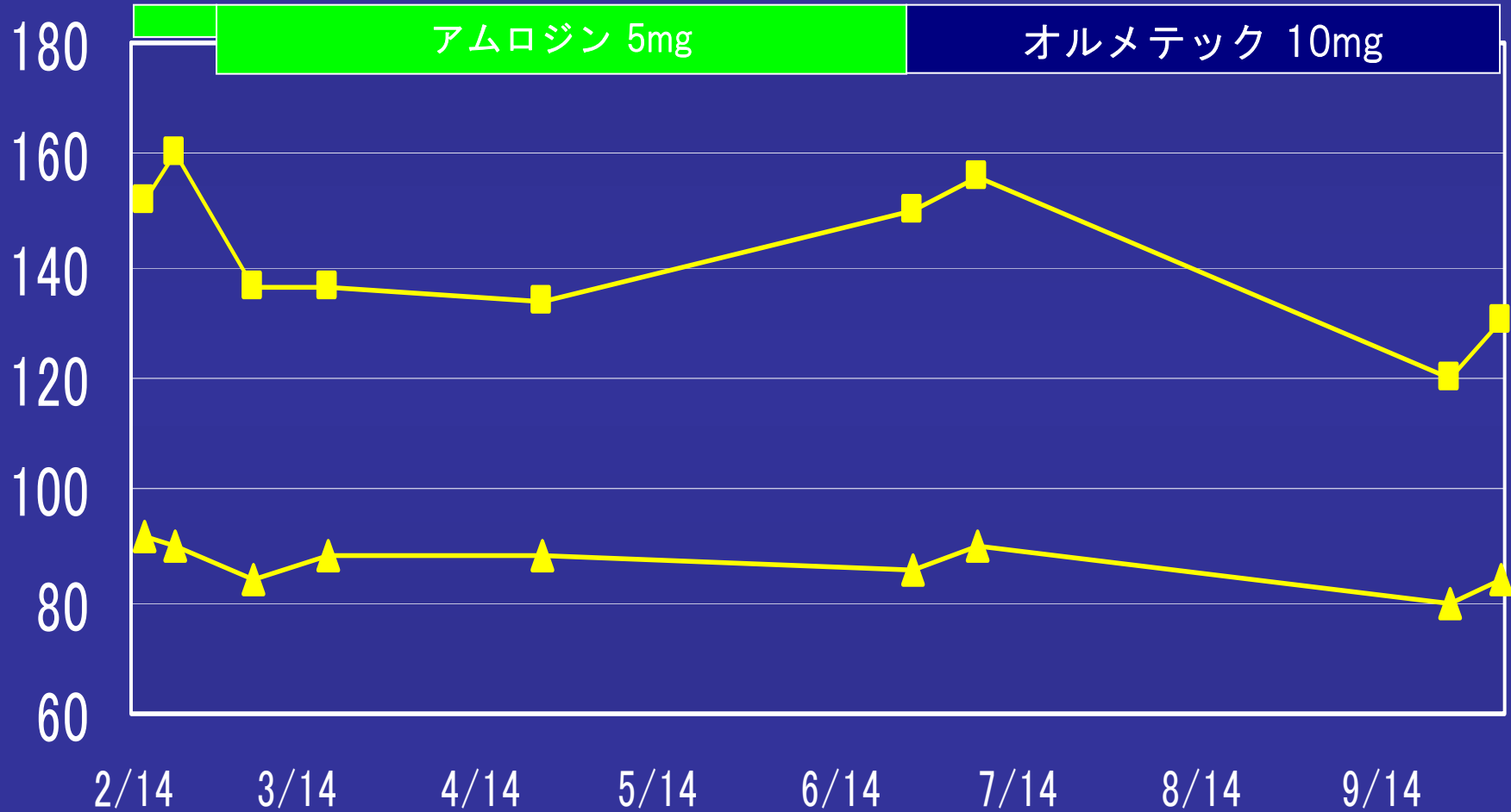
一時血圧改善するも、6月26日、血圧156/88

オルメテック10mg、レキソタン1mg開始。

MRIにて無症候性脳梗塞あり。

# 症例 4

アムロジン  
2.5mg



■ 収縮期血圧 ▲ 拡張期血圧

# 症例 5

症例： 64歳女性

病歴： 平成13年11月初めから、右頸部の  
走る痛みあり。四肢のしびれもあり。

11月28日、当院初診。

四肢腱反射亢進あり。

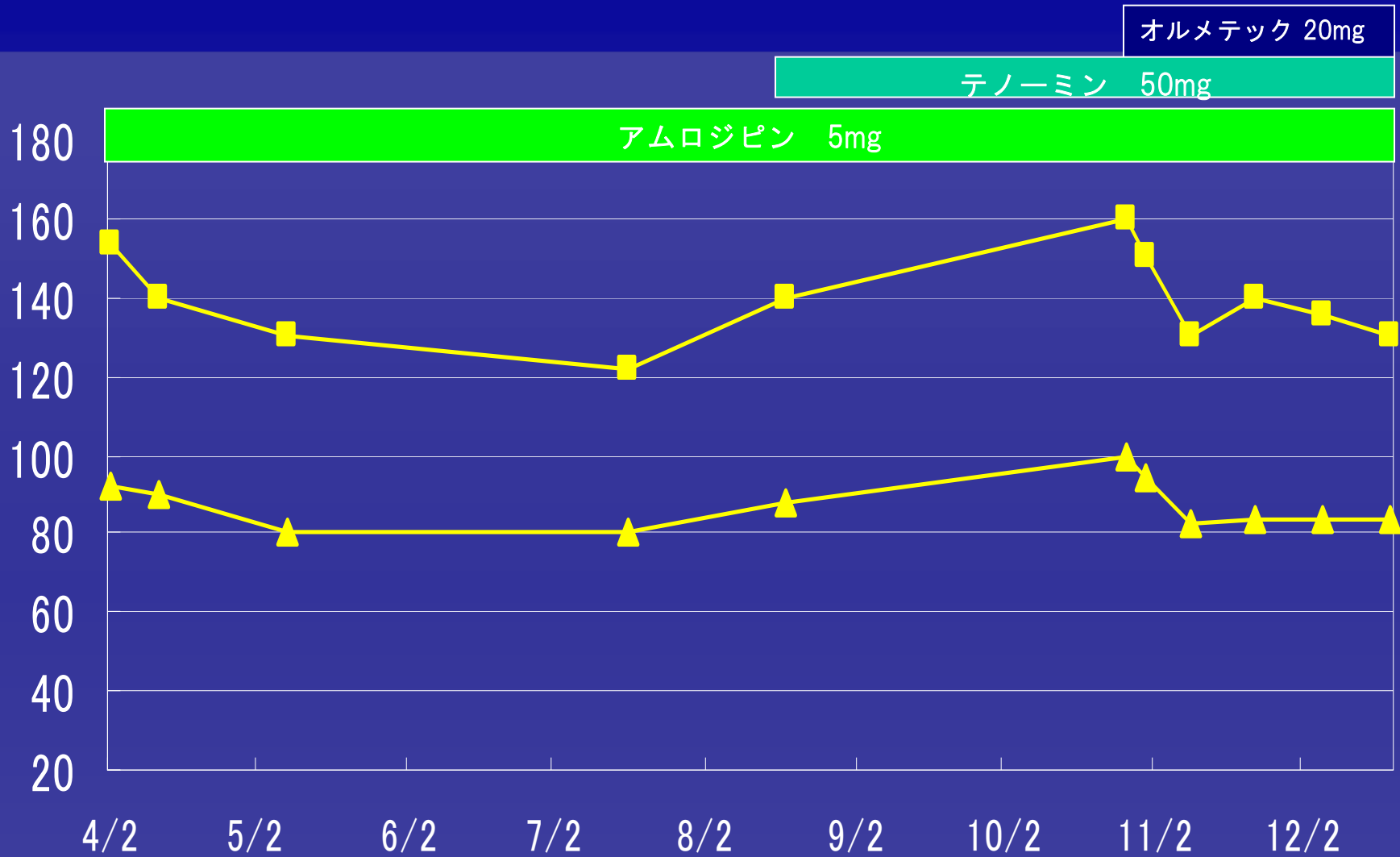
頸椎MRIにて頸部脊髄症の診断。

平成16年10月27日再診。

血圧160/100あり。

アムロジン5mg、テノーミン50mg継続中。

# 症例 5



■ 収縮期血圧 ▲ 拡張期血圧

# 症例のまとめ

1. ディオバンからオルメテックに切り替えた症例  
(症例1, 2, 3)では、血圧不変1例、より強い  
降圧効果の認められた症例2例であった。  
症例1では、降圧効果の発現が速かった。
2. 症例4, 5では、アムロジンに比べ、より強い降  
圧効果が認められた。

# 神経内科医にとっての降圧の意義

1. 脳卒中発症の予防
2. 認知機能の改善（痴呆の予防？）
3. 心疾患、腎障害の予防による健康維持

# 河北新報 2004年12月3日

## ライフ

冬場の急上昇は、脳血管疾患の発症率を高める。脳血管疾患は、脳出血、脳梗塞、脳動脈瘤破裂など、脳血管が破れて出血する「くも膜下出血」の三つ。住環境の整備に伴い、脳出血は季節変動が小さくなり、脳梗塞は減少しているが、脳梗塞は脳動脈硬化（MIBI）など脳機能の向上で発症が増加傾向にある。

### EYE

冬場の急上昇は、脳血管疾患の発症率を高める。脳血管疾患は、脳出血、脳梗塞、脳動脈瘤破裂など、脳血管が破れて出血する「くも膜下出血」の三つ。住環境の整備に伴い、脳出血は季節変動が小さくなり、脳梗塞は減少しているが、脳梗塞は脳動脈硬化（MIBI）など脳機能の向上で発症が増加傾向にある。



脳血管疾患の発症率を高める。脳血管疾患は、脳出血、脳梗塞、脳動脈瘤破裂など、脳血管が破れて出血する「くも膜下出血」の三つ。住環境の整備に伴い、脳出血は季節変動が小さくなり、脳梗塞は減少しているが、脳梗塞は脳動脈硬化（MIBI）など脳機能の向上で発症が増加傾向にある。

### 冬場の脳疾患

## 血圧の急上昇に注意

**冬場に血圧が急上昇するケース**

- 浴室**  
浴衣切った脱衣所で着になる  
浴衣切った状態で42度以上の熱い湯に入る
- トイレ**  
浴衣切った状態でトイレに入る  
便をするために顔や首を冷やす
- 洗面所**  
浴衣切った状態で洗面をする  
顔を冷やす
- 寝室**  
起きた後、寝間着のまま動き始める

### 脱衣所 トイレ しっかり暖めて

脱衣所、トイレ、浴室、洗面所、寝室など、冬場の急上昇は、脳血管疾患の発症率を高める。脳血管疾患は、脳出血、脳梗塞、脳動脈瘤破裂など、脳血管が破れて出血する「くも膜下出血」の三つ。住環境の整備に伴い、脳出血は季節変動が小さくなり、脳梗塞は減少しているが、脳梗塞は脳動脈硬化（MIBI）など脳機能の向上で発症が増加傾向にある。

### 住環境改善し 寒暖差解消を

住環境の改善は、冬場の急上昇を減らす。住環境の整備に伴い、脳出血は季節変動が小さくなり、脳梗塞は減少しているが、脳梗塞は脳動脈硬化（MIBI）など脳機能の向上で発症が増加傾向にある。

メモ 一般に脳卒中と呼ばれる脳血管疾患は、脳血管が破れて出血し、脳細胞を圧迫して発症する「脳出血」②血管が詰まるなどして血液が脳に回らず、脳細胞が死んでしまう「脳梗塞（こうそく）」③脳を取り巻く3層のうち、真ん中のくも膜の下を流

日本高血圧学会  
高血圧治療ガイドライン2004

JSH-2004

日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン作成委員会  
Guidelines Subcommittee of the Japanese Society of Hypertension



# 脳血管障害を合併する高血圧の治療

## 超急性期

(発症3時間以内)

血栓溶解療法予定患者では180/105mmHg未満に

## 急性期

(発症1~2週以内)

### 降圧治療対象

- 拡張期血圧140mmHg以上持続
- 血圧220/120mmHg以上、あるいは平均血圧130mmHg以上

### 降圧目標

- 脳梗塞 前値の85~90%
- 脳出血 前値の80%

## 慢性期

(発症1カ月以降)

降圧薬治療(Ca拮抗薬、ACE阻害薬、ARB、利尿薬など)

- 一次目標(治療開始2~3カ月) 150/95mmHg未満
- 最終目標(治療開始数カ月以降) 140/90mmHg未満

緩徐な降圧がきわめて重要であり、臨床病型(脳出血、ラクナ梗塞など)や脳循環不全症状の有無に留意

# 大規模臨床試験

## PROGRESS

Perindopril群で28%の有意な脳卒中発症抑制

## ALLHAT

Amlodipineは利尿薬に比べ、脳卒中発症抑制に優れる

## VALUE

Valsartan群、Amlodipine群で脳卒中発症抑制に有意差なし

# 降圧による認知機能の進展抑制

Ca拮抗剤

Sys-Eur試験

Sys-Eur2試験

ACE阻害薬、ARB

HOPE試験

SCOPE試験